

に禁煙宣言をされ、喝采を浴びていました。熊本市長の幸山政史氏のお話しやアトラクションもありました。

最後に禁煙推進宣言を採択しました。
①医療関係者の禁煙支援・推進、②医療機関の敷地内全面禁煙推進と関連行事の禁煙化、③喫煙者への病態を踏まえた禁煙への助言と支援、④医療を学ぶ学生の禁煙と喫煙防止教育、⑤妊婦、未成年者に対しての喫煙防止と受動喫煙防止、⑥児童・生徒への喫煙防止教育の推進、⑦公共施設や職場の敷地内禁煙または建物内禁煙を旨とした受動喫煙防止、特に教育施設の敷地内禁煙推進という内容です。禁煙資料や詳細は <http://square.unin.ac.jp/nosmoke/jssc.html> をご覧下さい。

第十三回全国禁煙推進研究会に助成をいただきました財団法人肥後医育振興会の皆様へ心から感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

第三十一回日本肝移植研究会の報告

熊本大学大学院生命科学研究部
小児外科学・移植外科学 猪股裕紀洋

第三十一回日本肝移植研究会を、平成二十五年七月四～五日に、熊本全日空ホテルニュースカイで開催しました。全国の肝移植関係者が年一回一堂に会する研究会であり、前日には、脳死肝移植登録に関する、移植施設・適応評価委員会・日本臓器移植ネットワークの合同委員会も開かれるなど、学術のみならず、肝移

植をとりまく医療体制上も重要な集会となっております。

本会のテーマは、「標準化と挑戦」とし、昨年三十回の節目を超えた研究会として、次代につなげる標準化と、先を見据えた挑戦の双方をバランスをとって盛り込むプログラムを企画しました。シンポジウム六題、ワークショップ二題のほか、フロアからのクリッカーによる参加企画、「標準化」の象徴としての教育映像セッションとなる国内を代表する移植医による標準手術手技ビデオの供覧、などを盛り込み、公募演題一八〇題、参加者は医師、看護師、コーディネーターなど四〇〇名以上となり、いずれも本研究会では過去最多となりました。

海外招請者としては、斯界の世界的リーダーであるバイラー大学 Kimmann 教授、分割肝移植の権威キングスカロレッジの Rota 教授、日本を遙かに凌駕して躍進著しい韓国 Samsung 医療センターの SK Lee 教授をお願いし、いずれもきわめて興味深い講演をいただきました。また、特別講演として、横浜市立大学の谷口英樹教授に、肝臓再生医療の最先端のお話を伺い、「挑戦」の象徴といたしました。山中教授のノーベル賞受賞により再生医療が激流となっておりますが、その一年以上前から谷口先生にはお願いしておりました。マウスの頭部を用いて、iPS細胞から血管構造も有するヒトミニ肝臓を作ること成功しこれが Zaurie に公表された翌日というタイミングでのご講演となり、司会をいただいた熊大発生医学研究所中尾所長からも、タイムリングの良さに賞賛をいただきました。

二日目の会終了後には、肝臓移植を知ろう、というタイトルで市民公開講座も開催し一五〇名ほどのご参加をいただき、臓器提供の推進や肝疾患についてのわかりやすいお話を聞く機会となりました。

プログラムはきわめてタイトでしたが、日頃超人的スケジュールで働く移植関係者の慰労にと、おもてなしも考慮しました。幸い、研究会の懇親会にはほとんど参加者が来られ焼酎や熊本名物を堪能できていました。また、二日目は朝七時からでしたので、大学病院内の「サンテ」をお願いして焼きたてのパンを提供し好評を得ました。

国内の肝移植の裾野は広がっています。今回の研究会はそれを象徴する盛り上がりであったと感じました。準備段階から多面的にご支援いただきました肥後医育振興会や熊本県、コンベンション協会、熊本大学、同附属病院、および関連病院の方々に、厚く御礼申し上げます。

第二十九回熊本医学・生物科学国際シンポジウムのお知らせ

熊本大学大学院生命科学研究部
小児科学分野教授 遠藤 文夫

平成二十五年十一月一日(金)に熊本大学大学院生命科学研究部小児科学分野が担当となり、第二十九回熊本医学・生物科学国際シンポジウム「母乳の科学」を開催させていただきますことになりました。

今年、熊本大学医学部附属病院内の山崎記念館にて開催いたします。肥後医育振興会ならびに会員の先生方におかれましてはご声援、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今回の国際シンポジウムにおきましては、小児の栄養、特に母乳栄養に関する最新の科学的な知見を報告し、活発な議論をすることを目的とし、ヨーロッパ、米国から第一線の研究者をお招きする予定です。さらに、アジア地域での小児栄養の状況ならびに各国における栄養学研究の現状を報告、議論する場として、タイ、マレーシア、ベトナム、インドネシア、フィリピンからも各国を代表する第一線の研究者をお招きします。

母乳に関する科学的な検証を行う場であることはもちろんですが、近年の研究からは胎児期、幼児期、小児期の栄養管理が将来の成人病の大きな要因であるとす、「成人病胎児期発症説」(パーカー説)が知られております。この小児期の栄養と成人病についても大きなテーマの一つとして活発な議論を期待しております。

午前中は主に日本からの報告、午後の第一部をアジアセッションとしてアジア地域の栄養に関するシンポジウムを開催し、第二部を米国およびヨーロッパからの招待者による教育講演を行う予定です。また、夜の部ではテーマ「母乳を考える」と題して市民公開講座を予定しております。講師は、熊本大学医学部附属病院新生児学寄附講座 特任教授 三淵浩先生、熊本大学大学院生命科学研究部産婦人科学分野 准教授 大場隆先生、